

Beyond SDGs イノベーション学会 (Academy of innovation for Beyond SDGs:AIBS) 設立趣意書

学会設立の目的

本学会は、これまでの経済偏重の成長によって生じた歪みを是正し、経済・環境・社会の好循環を基盤とする様々な仕組みを再構築することで、一世代先、二世代先の方々が他人の自由を尊重しながらも、自分の自由を追い求めることが出来る社会を実現するために設立します。

SDGs では17個の目標策定時に、様々な歪みを是正するための視点が盛り込まれました。また、全ての人の人権が重視され、自由が尊重されることが「誰ひとり取り残さない」として根底に置かれています。

本学会はこうした理念に共感し、設立されるものです。

学会名の由来について

現在、2030年を目標に世界中の人がSDGsの達成に尽力しています。SDGsはこれまで私達が取り組んできたを肯定するために取り組むことではなく、世界を変革するために存在しているものです。そのために、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」ではタイトルに“Transforming our world”（「我々の世界を変革する」と記載されています。

既に2030年まで10年切っています。世界を大きく変革するという意味では、10年という時間はあまりにも短いです。そのため、私達はSDGsの目標年を人類におけるターニングポイントのタイミングとしつつも、SDGsの先を見据えた社会変革に取り組む必要があります。SDGsの達成について考えるとともに、SDGsの先のゴールを描くことにも注力する必要があります。こうした背景から、学会の名称をBeyond SDGs イノベーション学会と名付けました。なお、SDGsの次のゴールが策定されたタイミングで、名称を変更することとします。

学会の特徴

学会設立の目的を達成するために、本学会では特に既存の社会において分断、もしくは関係の歪みが生じる傾向にある以下の点に注目し、これを解消することで、新たな知の創造と社会変革の実践を実現します。

また、一世代先、二世代先の方々が理想とする社会を実現するために、若者の参画を強く奨励し、若者の活動の支援や世代や立場を超えた交流の場づくりを実践していきます。

・研究領域ごとの縦割り構造

主に、「教育・働き方」、「ビジネス」、「地域／空間の計画／マネジメント」、「テクノロジー」といった研究の重点領域を設定するとともに、領域横断の研究を推奨します。それにより、

これまでトレードオフが発生することで最適解が見いだせなかった地球規模課題の解決の実現を目指します。

- ・研究者と実務者の分断

実務経験のある研究者、学術領域に関心が高い実務者、研究者・実務者間での連携に関心が高い方々を積極的に招き入れます。研究者と実務者がデータを共有することで、研究者はより実社会を反映した研究の推進、実務者は自分たちの活動の意義や有効性に対して科学的根拠を得ることで、社会変革の推進を加速させることを目指します。

- ・学びと遊びの分断

遊びの要素を組み入れることで、学びの質は高まります。研究という学びにおいて、人々が積極的に取り組みたいと思う遊びの要素を組み込むことを推奨します。それにより、誰もが生涯を通じて学び続けたいと思える社会の実現を目指します。

- ・社会における年功序列

過去の成功体験が重視され変化が起きにくい現状を打破するため、日本において伝承されてきた不易流行という考え方にに基づきながら、若者の参画・価値観・発言を尊重できる研究者／実務者で学会を構成します。それにより、年齢を超えた活発な交流と支え合いが身近に存在する社会の実現を目指します。

学会運営について

学会の特徴に合わせて、学会運営についても、従来の学会運営という概念にとらわれずに、常に最適な運営手法を模索していきます。現時点では、以下の取組を重視していきます。

- ・時限的運営体制

時間が経つとともに、学会の運営が硬直的な考えにより行われるようになることを防ぐために、経営陣は時限的な体制とします。具体的には、SDGsの目標年である2030年には必ず設立時の次の世代による運営体制を確立します。

- ・50歳以下の会員の活動を優先的に支援

若手・中堅の研究者・実務者の活躍機会を増やすために、本学会では50歳以下の会員の活動を優先的に支援し、機会創出に貢献します。

- ・小中高生の学会活動への参加を積極的に支援

研究活動や研究者への関心を高めるとともに、エビデンスを重視した活動を世の中に増やしていくために、小中高生の学会活動への参加を積極的に支援していきます。

- ・オンライン中心の運営

運営の効率化を実現するために、出来る限りオンライン中心での運営を行っていきます。ただし、オンラインよりもリアルでの運営のほうが効果的な状況においては、リアルとオンラインのハイブリッドでの運営を目指します。

- ・量的研究に加えて、積極的なアクションリサーチ等の質的研究を推奨

本学会では、未来を創造していくための研究活動を推奨していきます。そのため、量的研

究が難しいような場合においては、アクションリサーチ等の質的研究を推奨することとし、質的研究の手法論の共有等も積極的に行っていきます。

・研究者倫理／技術者倫理／経営者倫理を重視した運営

科学技術の発展により、地球規模課題の解決が進むこともあれば、現在存在しない新たな課題を生み出してしまうこともあります。本学会では、推進する研究を通じた新たな課題の発生を出来る限りなくしていくためにも、研究者倫理／技術者倫理／経営者倫理を重視した研究を推奨します。また、研究者倫理／技術者倫理／経営者倫理を定着させるための研究／活動等の実施も推奨いたします。

設立発起人(五十音順)

- ・大石芳裕
- ・佐藤寛
- ・片桐由希子
- ・蟹江憲史
- ・狩野剛
- ・北川達也
- ・黒田かをり
- ・徳田香子
- ・平本督太郎
- ・藤本雅則
- ・渡邊さやか
- ・塚本文
- ・柳谷牧子
- ・小柴巖和
- ・伊吹英子

運営体制(理事)

会長：平本督太郎

副会長：片桐由希子

副会長：北川達也

副会長：藤本雅則

常任理事：狩野剛

常任理事：徳田香子

常任理事：渡邊さやか

理事：塚本文

理事：柳谷牧子

理事：小柴巖和

理事：伊吹英子

理事：池田梨花

理事：三島由樹

アドバイザー

・大石芳裕様（明治大学経営学部教授、国際ビジネス研究学会常任理事、元異文化経営学会理事、元日本流通学会会長）

・大川恵子（慶應義塾大学メディアデザイン研究科教授、Leader of School of Internet (SOI), WIDE Project Board Member)

・蟹江憲史（慶應義塾大学大学院政策・メディア研究科 教授、元環境経済・政策学会理事）

・黒田かをり様（CSO ネットワーク顧問、企業と社会フォーラム、国際開発学会理事）

・佐藤寛様（ジェトロアジア経済研究所上席主任調査研究員、元国際開発学会会長等）

事務担当団体

金沢工業大学 SDGs 推進センター

非営利型一般社団法人 BoP Global Network Japan

非営利型一般社団法人 Beyond SDGs Japan